

平成29年度大学コンソーシアムやまがた第1回総会議事録

日 時	平成29年6月13日(火) 13:30~14:24		
場 所	ゆうキャンパス・ステーション及びテレビ会議		
出席者	羽陽学園短期大学	:	渡邊 洋一 学長
	鶴岡工業高等専門学校	:	高橋 幸司 校長
	東北芸術工科大学	:	根岸 吉太郎 学長
	〃	:	野村 真司 幹事会副委員長/常務理事
	東北公益文科大学	:	吉村 昇 学長 →代理 神田 直弥 学部長
	東北文教大学/東北文教大学 短期大学部	:	鬼武 一夫 学長
	〃	:	大桃 伸一 幹事会副委員長/学部長・教授
	放送大学山形学習センター	:	櫻井 敬久 所長
	山形県立産業技術短期大学校	:	尾形 健明 校長
	山形県立米沢栄養大学/山形 県立米沢女子短期大学	:	鈴木 道子 学長
	〃	:	奥山 卓郎 幹事会副委員長/理事・事務局長
	山形工科短期大学校	:	小幡 知之 校長
	山形大学	:	小山 清人 学長
	〃	:	安田 弘法 幹事会委員長/理事・副学長
	〃	:	栗山 恭直 企画会議委員長/教授
欠席者	山形県立農林大学校	:	石川 一夫 校長
	山形県立保健医療大学	:	前田 邦彦 学長
	〃	:	高橋 亘 幹事会副委員長/理事・事務局長
	山形県	:	柴田 智樹 総務部長
陪席者	山形大学	:	伊藤 雅彦 教育・学生支援部長
	山形大学	:	布施 一明 教育・学生支援部学務課長
	山形県	:	小座間優華理 総務部学事文書課主任主事

I 開会

はじめに、事務局から、新たに委員になった6名の紹介、陪席者の紹介及び総会成立の報告があった。次いで会長から、本会議の議事録署名人として東北文教大学 鬼武委員と山形工科短期大学校 小幡委員の二人に依頼があった。

II 議事

[報告事項]

1 平成28年度事業報告について

事務局から資料1に基づき、平成28年度事業報告について以下の説明があった。

(説明内容)

- ・「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」について、1の「高等教育山形宣言」プロジェクトは、山形大学3件、山形工科短期大学校1件、計4件が採択・実施された。
- ・「2 企画会議主催プロジェクト」について、(1)やまがた夜話は、平成28年度は延べ1,318人の参加があった。(2)ビブリオバトルの開催は、10月22日に山形大学小白川図書館の主催で行われ、山形大学生5名のみでの参加であった。(3)山形大学男女共同参画シンポジウムは、11月11日に米沢市で開催され100名の参加があった。(4)小学生を対象とした体験型学習の開催は、11月13日にゆうキャンパス・ステーションと駅西の芝ゾーンを使って「イヌワシふれあい体験」を開催し、小学生とその保護者24組48名の参加があった。(5)プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動の開催は、2月18日に山辺町大字大蔵で「モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会」を行い、スタッフとして東北芸術工科大学学生10名、山形大学教職員2名に協力いただいた。
- ・「連携事業」について、(1)単位互換の推進では、単位互換受講者数は延86人となった。また、「履修学生交通費支援制度」を利用した学生は30人であった。(2)大学進学等説明会は、13高校で開催した。(3)やまがた高等教育職業フォーラムは、8月21日に霞城セントラル1階アトリウムで12機関の参加を得て実施したが、低調な結果となった。
- ・「教職員の交流事業」は、広島市で開催された「全国大学コンソーシアム協議会総会」及び「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」へ1名が参加した。
- ・「広報事業」は、広報パンフレットを4,300部作成し県内の高校及び加盟機関へ配布した。
- ・「受託事業」は、文部科学省の補助金事業であった大学間連携共同教育推進事業が平成28年度末で終了した。3月に行われた総会の席で28年度報告書及び5年間の最終報告書を配布した。
- ・「協力事業」は、県が開催している「日本一さくらんぼ祭り」へ学生パフォーマンスやまがたゆうキャンパスステージへ参加する学生の募集を行った。

以上

(質疑応答等) 特になし

[協議事項]

1 平成28年度収支決算(案)及び 2 監査報告について

事務局から資料2に基づき、平成28年度収支決算(案)について、主に3月23日の総会案から変わった点について以下のとおり説明があった。

(説明内容)

- ・収入の欄で、受託事業収入の項目で、「山形人材育成委員会」の欠席委員の旅費及び謝金に残額が生じたため、山形大学に返還した108,192円を減額補正とした。
- ・支出の欄で、項目の1番目大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業は、2月18日開催した「雪中棚田サッカー大会」の清算が3月に行われたため、9,411円の減額補正とした。
- ・連携事業では、単位互換リーフレットの作成部数の増加のために1,620円を増額補正した。
- ・大学コンソーシアムやまがた運営費では、事務局運営共通経費で約7万円、事務局職員雇用経費で約6万円と合わせて131,900円を減額補正した。

- ・ゆうキャンパス・ステーション運営費では、事業推進費（消耗品等）で8,079円の減額補正とした。
- ・大学間連携共同教育推進事業分の108,192円を除く減額分147,770円は予備費を増額補正した。
- ・以上、収入決算額10,711,923円から支出決算額8,340,592円を差し引いた2,371,331円が29年度への繰越額となる。

続いて、鈴木監事から資料3に基づき、平成28年度事業報告及び決算について「適正である」との監査報告があった。

(質疑応答等) 特になし

以上の結果、平成28年度収支決算(案)について了承された。

3 平成29年度事業計画(案)及び4 収支予算(案)について

事務局から、事業計画(案)について資料4に基づき、以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・事業計画書1頁目の前文に昨年度まで「大学間連携共同教育推進事業を強力に実施していく」としていたが、本事業は平成28年度で終了したので削除している。また、29年度は事業評価を行う。
- ・大学コンソーシアムの顔となる事業において、1「高等教育山形宣言」プロジェクトは、学生が企画し実施する事業であることから、29年度も事業を実施する。
- ・2 企画会議事業では、(1)一般市民に広く定着している「やまがた夜話」を29年度も引き続き実施する。(2)その他のイベントについては、本年度も実施してほしいと要望のある「山形大学男女共同参画シンポジウムの開催」、「小学生を対象とした体験型学習の開催」、「プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動」の3つは実施する。ただし、ビブリオバトルは、27年度、28年度ともに山形大学生のみの参加であったことから、29年度はコンソーシアムの共催事業からはずした。

なお、6月6日の幹事会で、「やまがた夜話」について、山形市以外での開催について意見があったため、今後検討する。

- ・山形講座フォローアップ事業は、新規事業となる。平成24年度から文部科学省の補助事業で実施してきた「大学間連携共同教育推進事業」が28年度で終了したが、「補助期間終了後も継続して実施する」という補助事業に付された条件がある。

これを受けて山形人材育成委員会から、「大学コンソーシアムやまがたで継続するもの」として、①山形講座の開設、②共同教育FDの実施、③山形地域志向型科目等の広報の3つの取組について提案があったもので、まずは単年度での事業実施を考える。

なお、5月18日の企画会議において、共同教育FDの実施など今年度の進め方について検討をいただき、他機関でも同じようなFD研修を行っているので、単独開催にこだわらず進めていきたいとの話があった。

また、6月6日の幹事会で栗山企画会議委員長から、第1回目の共同教育FD事業として

9月8日(金)山形大学小白川キャンパスにおいて開催の山形大学「基盤教育ワークショップ」への参加を考えており、後日案内をする旨の報告があった。

- ・連携事業 について、(1)単位互換の推進、および(2)大学等進学説明会は、29年度も実施する。すでに、5月19日天童高校、5月31日小国高校、6月8日酒田西高校で実施した。
- ・教職員の交流事業について、29年度も全国大学コンソーシアムの総会と研究交流フォーラムへの参加を予定する。
- ・広報事業について、大学コンソーシアムやまがたの「パンフレット」及び、PRグッズとして「コンソーシアムの名入り付箋紙」を作成する。
- ・協力事業 について、「日本一のさくらんぼ祭り」は、すでに29年度も参加学生募集の協力をしており、6月17日(土)に山形市七日町で行われる。
- ・事業評価について、29年度は本コンソーシアムの事業評価を行い、この結果に基づき、幹事会か別途ワーキンググループにおいて第3期大学コンソーシアムやまがた事業計画案を策定する予定である。
- ・受託事業は、文科省の補助事業が終了したことから29年度はない。

引続き事務局から資料5に基づき、以下のとおり平成29年度収支予算(案)の説明があった。

- ・【収入】について、「機関負担金収入」は、4,318,330円。「ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金」は、昨年と同額の3,060,000円。「繰越金」は、資料2の平成28年度収支決算書の額2,371,331円。これらに雑収入30円を加えた9,749,691円が収入予算となる。
- ・【支出】について、平成28年度から大きく変わった点、及び前回の総会での案から変わった点を重点的に説明。
- ・「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」において、高等教育山形宣言プロジェクトは、新規事業となる山形講座フォローアップ事業へ経費を振り分ける必要があるため、昨年度の60万円から30万円に減額計上した。
- ・企画会議事業では、ビブリオバトルを実施しないため、昨年度25万円から減額して15万円にした。
- ・やまがた夜話は28年度実績に合わせた額の25万円を計上。3月の総会案の20万円から5万円増額した。
- ・新規事業となる「山形講座フォローアップ事業」では、リーダーシップ教育の実施経費として30万円(講師の謝金)、共同教育FDに5万円(旅費)、山形地域志向型科目等の広報(旅費)に5万円と、合わせて40万円を計上した。
- ・「連携事業」について、単位互換の推進は、チラシ印刷費と送料の実績から昨年度10万円を7.5万円に、単位互換履修学生交通費は28年度実績が661,460円であったが、山形講座の利用者が多かったことを勘案し、利用者が減ることが考えられるため40万円を計上した。
- ・「教職員の交流・連携事業」について、29年度の全国大学コンソーシアムの総会と研究交流フォーラムは沖縄県恩納村の沖縄科学技術大学院大学で開催されるため、1名分の参加

旅費 15 万円を計上した。(28 年度広島市 2 人分 17 万円計上)

- ・「広報事業」は、パンフレット 4,300 部 28.5 万円と、名入り付箋紙の 45 万円を計上。3 月の総会案では 37 万円としていたが、見積を取り直した結果 8 万円の増額となった。
 - ・「大学コンソーシアムやまがた運営費」について、総会等会議開催経費で、3 月の総会案では 1 万円としていたが、今年度事業評価委員会の開催分を新たに見込み 3 万円に増額した。
 - ・5 番目の事務局運営共通経費について、山形講座フォローアップ事業及び事業評価委員会の資料作成など印刷経費等の増が見込まれるため、3 月の総会案の 50 万円から、60 万円に 10 万円増額した。
 - ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費」は、前年度繰越額を事業推進費と併せて計上していたが、29 年度は事業推進費と予備費に分けて計上した。
- 以上、支出予算額は、9,749,691 円となる。

(主な質疑応答等)

- 昨年度の決算に比べ、広報事業費が高額になっている理由を教えてください。(根岸委員)
→パンフレットは昨年とほぼ同額であるが、本コンソーシアムの PR グッズとしてカウンター等においてある「名入付箋紙」が残り少ないので今年度作成するためである。これは 3 年に一度まとめて作成しているもの。(事務局)
- そうすると向こう 3 年で消費するという事か。(根岸委員)
→そのように考えている。単年度ごとに注文するよりまとめた方が経費を安くできるのでするようにしている。(事務局)
- 仮定の話だが、ここ(ゆうキャンパス・ステーション)を引き払うときに原状復帰等の経費が掛かると思うが、どのくらいの経費が見込まれるのか。(小山会長)
→見積もりを取っていないので不明だが、3 月に隣にあった山形講座の部屋の原状復帰をした際は約 60 万円かかっている。ここの約 3 分の 1 の広さということを考慮すると 200 万円程度ではないかと思込まれる。(事務局)

以上の結果、平成 29 年度事業計画(案)及び平成 29 年度収支予算(案)について承認された。

[その他]

1 ゆうキャンパス・ステーションの移転について

事務局から、ゆうキャンパス・ステーションの移転に関する経過について、以下の説明があった。

平成 27 年度に、県から大学コンソーシアムやまがたの活動拠点を生涯学習センター(遊学館)に移すことの話があり、昨年度本コンソーシアムは設計から参加したい旨、県教育庁文化財・生涯学習課へ前向きに考えたいと回答していた。

今年の 2 月 23 日に県の提案場所を確認し、2 階第 4 研修室を事務室に、第 5 研修室を研修室にする案を受け入れ、設計から参加し進めることで、3 月 23 日開催の総会で了承された。(資料 6)

現時点（5.31 確認）の遊学館改修工事の予定について、

- ・平成 28 年 9 月～29 年 9 月末 基本設計、実施設計
- ・平成 29 年 10 月～30 年 3 月 県の建築担当による工事費積算等
- ・平成 30 年 4 月以降 工事業者の決定
- ・平成 31 年度中に工事終了

ゆうキャンパス・ステーションは平成 32 年 3 月末に移転し、4 月から遊学館での活動を開始したいと県へ要望している。

このことについて、以下の質疑応答があった。

（主な質疑応答等）

- （遊学館の）近くに県営駐車場があり、遊学館を利用する場合はある時間無料で使用できるが、本コンソーシアムが移転した場合にはそこを使用できるのか。（櫻井委員）
→現在の遊学館利用者と同一条件で、2 時間まで無料で使用することが可能と聞いている。（事務局）

2 ゆうキャンパス・ステーションの使用について

事務局から、山形大学地域価値創成学研究所から、ゆうキャンパス・ステーションの事務室の一席を産学官連携の企画・打合せ等のために借りたいとの要望があり、幹事会でトライアルの形で貸すことにした旨の報告があった。

3 その他

会長から、国立大学は 32 年度から変わる入試制度について検討をしているが、各機関においてはどのような状況であるか意見が求められた。

（主な意見交換の内容）

- 受験人口が減ってくるということで、各機関共通の悩みになってくると思われるが、受験生が山形に留まるパーセントが非常に少ない。今後、山形県の高等教育機関にどのように入ってもらえるかについて、一大学の問題ではなくなってくる。県も含めて全体で考えなければならない問題である。ここにいる高等教育機関の定員分の受験生はいないし、取り合っても足りない。県外を希望する学生をいかに県内へとどめるかの方策について、是非一緒に考えてもらいたい。（鬼武委員）
- 全く同感である。国立大学を受ける山形県の高校生は 1,400 人ぐらいで、山形大学の定員は 1,700 人ぐらいなのでまだ余ることになる。もう一つは芸工大にも言えることかもしれないが宮城県が増えて山形県が減っている。（小山会長）
- 今年は宮城県の方が若干多い受験生であった。（根岸委員）
- 山形大学はここ 2～3 年、宮城県の受験生が多くて、合格者はかろうじて山形県が多いので、合格率は山形県の方が良いことになる。ただし、隠れた理由として推薦が山形県が多いためである。（小山会長）
- 悩みは皆同じである。現在、栄養大学の方は大学院設置に向けて順調に進んでいるが、女子

短期大学は公立では全国に2校しかないので、現在、その点の将来構想を考えているところである。女子短期大学は県内からの入学者が4割しかいない状況で、地元に着したというよりは、全国でも珍しい短大ということで全国から集まってきているものと思われる。また、入学者のうち4割くらいは4年制大学への3年次編入希望となっている。4年制大学の方は編入受入れの間口が狭まってきていることもあり、真剣に将来構想を考えている。その際に県内の高等教育機関が受験生を取り合うのではなく、県内で一緒に手を組んで受験者を県内へとどめる方法を考えていく方が良いのではないかと思う。具体的には庄内方面、置賜方面というよりはお互いに持っているノウハウを一緒にして、宮城県等へ出ていく人たちをどのようにしてとどめるか。現在、他県へどのくらい出ていくのかを調べており、例えば東北学院大学へは2百数十人が入学している。そういうところへどのような人たちが行って、どのような学部があって、どういう就職先があれば県内に残るのかということ調べているところで、その辺のところを手を組めれば良いのではないかと思っている。多分、鬼武委員が言われたように1校だけで頑張っても無理である。それから、将来構想を考えた場合に、県内の他の大学と内容的に重複するところが出てしまうが、その場合でもお互いに足を引っ張るのではなく、重複しながらもどういう風に考えたらよいかを一緒に考えられれば良い。高等教育機関の数がなければ学生たちは残らないし、その後の就職先がなければ残らないので、高等教育機関として企業に働きかけて大卒の学生を採用してもらえるように刺激していくことも我々の役割なのではないかと考えている。協力をお願いしたい。(鈴木委員)

- 宮城県には600人くらい山形県の高校から行っているのではなかったか。東京都だけでももっと出て行っている。(小山会長)
- 具体的にどの辺に出ているのか、また、でているのは男子か女子かなど調べているところである。それをもとにどこをとどめられるのかを考えていきたい。(鈴木委員)
- 是非、情報共有をお願いしたい。就職については、地元の企業に就職するには地元の大学を出た方が有利だと思う。これは人事課担当の人に聞いた話だが、(後で)地元に戻りたいという人よりは初めから企業に入りたい人を優先するということである。(小山会長)

以上

【配布資料】

- 資料番号なし ・役員及び出席者名簿
- ・大学コンソーシアムやまがた会則
- ・平成28年度大学コンソーシアムやまがた第2回総会議事録
(平成29年3月23日開催)

- 資料 1 平成28年度大学コンソーシアムやまがた事業報告書
- 資料 2 平成28年度大学コンソーシアムやまがた収支決算書(案)
- 資料 3 監事監査に関する資料(5月24日:監事監査)
- 資料 4 平成29年度大学コンソーシアムやまがた事業計画書(案)
- 資料 5 平成29年度大学コンソーシアムやまがた収支予算書(案)

- 資料 6 山形県生涯学習センター（遊学館）
参考資料1 平成29年度「高等教育山形宣言プロジェクト」事業募集
参考資料2 やまがた夜話（5月、6月）のチラシ

議事録署名人

山形大学長

小山 清人 

東北文教大学長

鬼武 一夫 

山形工科短期大学校長

小幡 知之 